

413) 冬物語

僕のそば君がいたなら 寒くないどんな夜でも  
湯上がりの君の香りを 確かめて生きて行けたら  
それだけで幸せになる 君のこと愛してるから  
君こそが僕にとっては ささやかな生き甲斐なのさ

こんなにも愛してるのに 心では燃えているのに  
ぼくたちの冬物語 いつの間に凍りついたの  
生きているこの幸せが だんだんと辛さに変わる  
哀しみが消えるときまで 遠くから見つめていたい

海の底 貝のごとくに 閉ざされた君の心を  
開く鍵どこにあるのか 神様が教えてくれた  
ひたすらに信ずることと ひたすらに愛することで  
いつの日か心開いて 抱き合う時が来るはず

過ぎて行く冬物語 懐かしい思い出になる  
やがてくる春の光が ぼくたちの花を咲かせる  
そんな日がやって来るまで 今はただ待っているだけ  
君だけを愛していたい 君だけが僕のすべてさ